

## 令和8年度 府立桃山高等学校(全) 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

| 学校経営方針（中期経営目標）   | 前年度の成果と課題   | 本年度学校経営の重点（短期経営目標）  |
|--|---|---|
| <p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図る。資質・能力「5C」と「桃山エージェンシー」を身に付けた、個人と社会のウェルビーイングを実現できるグローバルサイエンス人材の育成を目指す。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>*5C<br/>グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として、本校では育成を目指している。</p> <p>①Critical thinking and problem solving（批判的思考力と問題解決力）<br/>②Creativity and innovation（創造力と革新力）<br/>③Collaboration（協働力）<br/>④Communication（コミュニケーション力）<br/>⑤Challenge（挑戦力）</p> <p>*桃山エージェンシー<br/>自らの能力を活かして社会に貢献しようとする意識</p> | <p>(1) すべての教育活動に探究の要素を取り入れようとする教職員の意識の醸成を図ることができた。</p> <p>(2) 「主体的学習者」の育成に向けた環境づくりはより一層推進できたが、生徒の多様性に対応するべく、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の要素を、「授業づくり」の視点に組み入れることが肝要である。</p> <p>(3) 組織的な教科指導や進路指導に取り組んだことで、多くの生徒が希望進路の実現を果たすことができた。今後も、大学の年内入試の動向を注視しながら、生徒がより高みを目指して積極的にチャレンジできるような組織的な指導・支援を継続する。</p> <p>(4) 探究型融合科目「グローバルサイエンス探究」の内容がより一層充実した。特に普通科2年生の課題研究発表会を外部に公開するなど、新たな取組を実施することができた。</p> <p>(5) 学校説明会、各中学校での説明会、ホームページ（YouTube）等をおして、本校の教育活動、SSH事業の取組、部活動の取組を広く発信し、大変多くの志願を賜った。今後は、一層広報活動を充実させ、さらに、府民の信頼・認知を獲得する必要がある。</p> | <p>(1) 学校経営方針を教育活動の最上位目標に位置づけ、各分掌・学年の業務が前年踏襲にならず、業務の精選や刷新をより一層進める。</p> <p>(2) 全教職員がSSH事業・探究的な学びの指導・支援に取り組む。</p> <p>(3) 主体的学習者（自らの興味・関心に基づき、学習目標の設定、計画、実行、振り返りを自律的に行う学習者）の育成のため、学び方を自己選択・決定できる環境づくりと、自ら学ぶ力を身につけさせる指導・支援を推進する。</p> <p>(4) 組織的な広報活動を展開し、YouTubeやInstagram等を活用した戦略的広報をより一層充実させ、選ばれ続ける学校づくりに取り組む。</p> <p>(5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努める。</p> |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域      | 重点目標  | 具体的方策   | 評価 |    | 成果と課題 |
|---------|---|---|----|----|-------|
|         |   |   | 中間 | 最終 |       |
| 教務部     | 「主体的学習者」の育成のための教育活動や授業改善の取組を支援する。   | SSH第IV期の実施にあたり、分掌、教科及び各種会議と連携し、SSH関連行事、探究活動、および学校行事等の調整を図る。   |    |    |       |
|         |   | 学年部、保健部及び各教科と連携し、学習に際して課題を抱える生徒に対して、補充等を通してきめ細かく指導できる体制を整える。  |    |    |       |
|         |   | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科と連携して授業改善を推進する。教科主任会議等を通して、教科を越えて成果や課題を共有する機会を設ける。   |    |    |       |
| 生徒指導部   | 生徒が自ら問いを持ち、解決に導くことができる創造性あふれる心豊かな人間の育成への仕掛け作りを行っていく。また、委員会活動や学校行事等の充実を図ることで、本校の掲げる「5C」を高めることにつなげていく。  | 生徒が主体となり、様々な行事に対して例年と同様の形でいいのかを試行錯誤させ、生徒全員の創意工夫を生かした主体的な取り組みを時代に応じた新しい桃山高校の魅力を作り上げていく。  |    |    |       |
|         |   | HR・部活動・生徒会の活動を生徒自身に計画・運営をさせることで生徒の主体性を養い、社会貢献への意識を向上させ、「5C」の力を身につけさせる。  |    |    |       |
|         |   | 生徒会と連携を図り、SNSを活用して学校内外へ桃高生の魅力を発信することで、広報活動をおこなうとともに、本校生徒に対しては部活動の様子や魅力を発信し、部活動への積極的参加を促し加入率の向上を図る。  |    |    |       |
| 進路指導部   | 生徒の意欲と桃山エージェンシーに火をつけ、生徒一人ひとりが主体的学習者として、より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的に、諦めず粘り強くチャレンジできるように進路指導及び環境づくりを展開する。   | 大学の年内入試の動向を的確につかみ、多様な希望進路の実現に向けて、総合型選抜、学校推薦型選抜、大学入学共通テストなどの各種ガイダンスを適切な時期及び方法で行い、丁寧かつ早期の準備を促し、質的向上を図る。また、平日学習会、模擬試験、小論文指導、面接指導等の組織的な進路指導を実施する。模擬試験については、結果の分析にとどまらず、教科内での効果的な活用方法を継続して考える。 |    |    |       |
|         |   | 入学生の80%以上が国公立大学の進学を希望する現状を踏まえ、低学年次から、外部講師を活用した「地方国公立大学の魅力」などの進路講演会を軸に、全国の大学や学問分野の視野を広げられる取り組みを展開する。   |    |    |       |
| 教育企画推進部 | 「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ICT環境を整備し、利活用を図る。  | ICT機器の整備・整理を進め、教員が必要な時に必要な機器を利用できるような環境作りを推進する。また、ClassiやTeams、生成AIなどについて、授業や普段の業務での活用方法を共有し、各教員の業務効率や授業の質の向上を図る。   |    |    |       |
|         | 広報をより充実させ、本校の魅力・特色を発信することで、選ばれ続ける学校作りを推進する。   | 昨年度のアンケート等を基に、説明会や学校案内の内容などの見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができるよう改善する。中学生・保護者の目に触れることが多いホームページ、公式YouTubeチャンネルのコンテンツを充実させる。校外での学校説明会や個別相談会にも積極的に参加し、本校の認知度を向上させる。                                     |    |    |       |
|         | 「予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力『5C』および自身の強みを活かして社会に貢献しようとする姿勢・意識『桃山エージェンシー』を身に付けた、個人と社会のウェルビーイングを実現するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、SSH第IV期2年目の事業を全校体制で実施する。 | SSH第IV期申請内容に基づいて令和8年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果の波及を行う。SSH第IV期の取組について、授業や指導方法のマニュアル化を行い、教職員研修等を通して教職員全体へ周知するとともに、関係分掌・教科と連携し、生徒が探究的な学びを通して自身のキャリア観を形成し、希望進路を実現させるための取組を全校体制で実施する。                 |    |    |       |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域    | 重点目標   | 具体的方策   | 評価 |    | 成果と課題 |
|-------|--|---|----|----|-------|
|       |  |   | 中間 | 最終 |       |
| 保健部   | 生徒にとって明るく活力のある学校生活を送れる安心で安全な学校環境の整備（予防的な役割の強化）                                 | 学校不適応が心配される生徒の学校生活への適応を支援するとともに、気にかかる生徒の早期発見・早期対応に努める。<br>ピアサポート（生徒同士で支えあう）の心得を醸成するとともに、その体験を通じて他者を思いやる豊かな人間性や社会性を育む。 |    |    |       |
|       |  | 保健委員会における探究的な活動をさらに充実させることで、生徒自身が自分の健康について考え行動できる力（ヘルスリテラシー）を育てる。   |    |    |       |
|       |  | 学校環境のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、美しい環境のもとに何事にも明るく前向きに取り組む姿勢を育む。<br>長寿命化工事の完成年度にあたり綺麗な状態が長続きするよう清掃活動におけるイベントを実施する。             |    |    |       |
| 図書部   | 生徒の自主的な学び、考えられる人に育てるため、本校の中核的な取組であるSSH教育活動の「5C」と「桃山エージェンシー」を身に付けられるようサポートしていく。 | 読書量を増やすために昨年は冬萌を電子化したのが、本年は更に読書を習慣化してもらうために、教員のおすすめ本を月1回配信したり、探究に役立つ推薦図書を示すなど、様々な仕掛けを試みる。                             |    |    |       |
|       |  | 11月の読書月間などを通じて、図書委員による自主的で積極的な図書館運営を行えるよう生徒自身の主体的な活動を支援する。  |    |    |       |
|       |  | 「5C」の特にChallengeに主眼に置き、まず図書館から少しずつ新しい試みに挑戦していき、生徒へ発信する。ホームページ掲載や校内の案内掲示・表示を活用し、積極的な広報を試みる。                            |    |    |       |
| 第1学年部 | 基礎学力を定着させ、探究する態度を養い、主体的な学習者を育成する。<br>桃山高校で多くの人と関わり、自他ともに認め合える生徒を育成する。          | 計画的に学習できる生徒を育てるために、集会やHRで、手帳でのスケジュール管理の方法を提案する。また、学んだことを自ら探究し、深めるように助言する。   |    |    |       |
|       |  | 気持ちよく人と関わるができる生徒を育成するために、学年通信や学年集会、HRを通して、生活リズム・あいさつ・身だしなみなどの基本的な生活習慣の大切さを意識づける。                                      |    |    |       |
|       |  | 自他ともに認め合える集団を育てるために、授業や学校行事、日々の学校生活の中で、異なる意見を持つ人々と関わり、協働する機会を設ける。   |    |    |       |
| 第2学年部 | 学習・学校生活の中で自ら問いを立て、考え、行動する力を育成する。<br>互いを認め合い、協働することでさらに成長できる集団を作る。              | 探究活動、授業、HR活動、学校行事等を通じて、自ら問いを立て、主体的に考え行動する機会を作る。主体的に自分の進路を選択できるように、オープンキャンパスやシンポジウムへの参加を促し、個別面談を適宜行いながらサポートする。         |    |    |       |
|       |  | 定期調査や模擬試験の結果を活用してフィードバックし学習方法を修正するとともに、学習を習慣化させる。進路実現までの2年間の見通しをもち、長期的な学習を意識させ、第3学年へと繋げる。                             |    |    |       |
|       |  | 担任が生徒一人ひとりと丁寧に関わり安心した環境作りをする。さらに、生徒たちが学校行事やLHRで個性を発揮し共に成長できる集団になるようにはたらきかける。  |    |    |       |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域    | 重点目標  | 具体的方策  | 評価 |    | 成果と課題 |  |
|-------|---|--|----|----|-------|--|
|       |   |  | 中間 | 最終 |       |  |
| 第3学年部 | 桃山高校での生活を通して、主体的・自律的に行動できる生徒を育てる。<br>また、人とのつながりを大切に、協働的に学び合うことで、互いに高め合える集団の形成を目指す。<br>さらに、自己の将来を主体的に展望し、目標実現に向けて継続的に努力できる力を育むとともに、望ましい社会人としての資質・能力の伸長を図る。 | ホームルームや面談などを通じて、個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した、学習指導、生活指導、進路指導を継続的に行うことを目指す。                        |    |    |       |  |
|       |   | 生徒たちが、進路実現までの見通しを持ち、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に関係分掌や教科担当者と連携し、生徒たち自らが意欲的に学校生活を過ごせるよう指導する。 |    |    |       |  |
| 事務部   | 生徒が安心して学べる環境を整えるとともに、学校経営方針である「5C」の力を高め、「桃山エージェンシー」を身に付けさせるための効果的な支援を行う。  | 各分掌や教科等から要望を聞き取り、生徒に効果的で質の高い学びが保障できる教育環境を提供する。   |    |    |       |  |
|       |   | 生徒・保護者が安心して学べるよう修学や進学などを支援するための各種援護制度について、各分掌とも連携を密にし、多くの人が制度を利用できるよう努める。                |    |    |       |  |
|       |   | 長寿命化工事を含めた校内の危険箇所・不具合箇所について、未然の予防に努める。事象が発生した際は、生徒・教職員の安全確保を第一にし迅速に対応を行う。                |    |    |       |  |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域   | 重点目標   | 具体的方策  | 評価 |    | 成果と課題 |  |
|------|--|--|----|----|-------|--|
|      |  |  | 中間 | 最終 |       |  |
| 国語   | 授業や探究活動を通して様々な文章等を的確に理解するとともに、自分の考えなどを効果的に表現する資質・能力を育成する。                            | ICT教材を積極的に運用しながら、生涯にわたって主体的に学び探究していく学習者の育成を行うと同時に、生徒の多様性に配慮した学習指導や、「協働的な学び」について研究・実践を重ねる。その方法について教科内で共有し、洗練する。   |    |    |       |  |
|      |  | 学校設定科目「総合現代文」の指導のあり方について研究するとともに、大学入試で要求される課題（教科問題・小論文）の研究を進め、生徒の国語力育成に還元すべく、教科内で情報を共有する。  |    |    |       |  |
| 地歴公民 | 授業や探究活動を通し、知的好奇心を高め、社会的事象の歴史的背景や現代的課題を多角的に考察し、論理的に説明・議論できる能力を養う。                     | ICTや資料を積極的に活用したペアワークや探究活動を通じて、現代社会が直面する諸課題を「自分事」として捉え、多様な他者と協働しながら解決策を模索する探究的な態度を育む。   |    |    |       |  |
|      |  | 質の高い授業を展開し、小テストや個別指導、模試の分析と生徒へのフィードバックを通して、知識理解の定着と希望進路につながる学力の伸長を目指す。   |    |    |       |  |
| 数学   | 学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指す。グローバルサイエンス探究との相互の連携を図り、論理的思考力の獲得を通して実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。 | 小テスト・定期考査・模擬試験の到達目標を早期に提示し、チェックシートなどを活用して学習計画の立案・実行・振り返りを習慣化させることで、自己調整力の育成を図る。あわせて、生徒の実態に応じた学習方法や課題設定を工夫し個別最適な学びを検討する。また、グローバルサイエンス探究との連携を通して論理的思考力と課題解決力を養い、主体的学習者の育成につなげる。さらに、できるだけ多くの生徒に数学検定の受験を推奨し、習熟度の高い生徒には数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促して、数学の楽しさや深く考える面白さに触れる機会を提供する。 |    |    |       |  |
|      |  | 深い学びの実現に向け、教授法やデジタル教科書等の効果的な活用を継続的に検討・改善する。また、ICTを用いてレポートや添削課題を共有し、ペアワークや探究活動を通して多様な考えに触れさせ、数学的・論理的思考力の向上を図る。  |    |    |       |  |
|      |  | 教育課程、指導計画及び評価方法について、従来の評価と観点別評価との整合を図りつつ、昨年度までの実践結果を踏まえて検証を行い、指導と評価の一体化に向けた改善を進める。   |    |    |       |  |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域   | 重点目標  | 具体的方策   | 評価 |    | 成果と課題 |
|------|---|---|----|----|-------|
|      |   |   | 中間 | 最終 |       |
| 理科   | 協働的な学びや探究活動を通して自然科学への興味関心を高め、科学的思考力を養う。日常生活における様々な現象を科学的に理解しようとする姿勢を養う。   | 思考力・判断力・表現力を育むための実験や実習、探究活動を積極的にを行う。  |    |    |       |
|      |   | パフォーマンス評価など、定期テスト以外の評価方法を模索する。  |    |    |       |
|      |   | 教育企画推進部と連携し、高大産連携講座の充実を図る。  |    |    |       |
| 保健体育 | 体育・保健の見方・考え方を働かせて健康課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程や探究活動を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 | 具体的な知識と汎用的な知識とを関連付けて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。                                   |    |    |       |
|      |   | 健康に関する課題を発見し合理的、計画的に解決することや、新たな課題の発見や探究活動につなげたりすることができるよう知識を活用、応用して思考・判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を活用して筋道を立てて伝えることができるよう指導する。 |    |    |       |
|      |   | 愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進しながら豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。  |    |    |       |
| 芸術   | 音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。   | 主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容の関連づけを図るとともに、生徒相互の発表に際してICT機器を活用した批評活動を積極的に取り入れる。  |    |    |       |
|      | 美術：授業と評価の一体化をふまえた授業計画を立て、その趣旨を理解した主体的な学習者の育成を図る。  | ICT機器を活用した相互評価を通じて、課題の明確化とメタ認知の育成を図る授業計画をたてる。   |    |    |       |
|      | 書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。  | 基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、ICT機器を活用した批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。   |    |    |       |
| 英語   | 英語学習における「主体的学習者」を育成する。  | 授業、家庭学習を通して主体的に学習に取り組めるよう、一年間の授業計画や活動の意義を明確に示し、効果的な学習に繋げる。  |    |    |       |
|      |   | 教員による解説を簡潔にし、ペアワークやパフォーマンステスト等を通して生徒の発話量・読解量・活動量を増やす。   |    |    |       |
|      |   | 従来から続けているパフォーマンス課題をさらに推進し、課題内容と評価の改良に取り組む。全学年を通して前年度の形式を見直し、英語によるコミュニケーションの楽しさを見だし、学習意欲向上に繋がるパフォーマンス課題の仕組みを作っていく。                                     |    |    |       |

## 令和8年度 学校経営計画（計画段階）

| 領域         | 重点目標  | 具体的方策   | 評価 |    | 成果と課題 |
|------------|---|---|----|----|-------|
|            |   |   | 中間 | 最終 |       |
| 家庭         | 変化の激しい社会に対して「衣・食・住・消費・福祉・子ども・環境」など多面的な学びを実現させるとともに、対話を中心にプレインストーミング・プレゼンテーションを実施し、キャリア教育・消費者教育・ジェンダー平等・SDGsへの理解を深める | 情報の選択・活用を伴う学習活動を取り入れ、消費者トラブル事例や契約・情報リテラシーに関する教材を活用し、金融教育等、実践的な判断力を育てる。                                |    |    |       |
|            |   | 「持続可能な衣食住」をテーマに、エンカル消費、地産地消、食品ロス、5Rなどの課題を扱った動画視聴や探求型授業を行う。調理実習や被服実習も取り入れる。                            |    |    |       |
|            |   | 乳幼児と高齢者の生活や福祉についても、ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。                                      |    |    |       |
| 情報         | 情報と情報技術を活用する力と情報社会に参画する力を養う。教科の教育活動を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を育てる。  | Society5.0を見据え、社会全体に対する関心を深めるとともに、生徒一人ひとりが主体的に情報社会に関わっていく態度を育成する。                                     |    |    |       |
|            |   | GS教科をはじめ、他教科の学習内容と情報科での実習を連携させることによって、より高度な情報活用能力を身に付けさせる。  |    |    |       |
| グローバルサイエンス | 探究的な学びを通して、予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力「5C」の育成および桃山エージェンシーの育成を図る。またSSH第IV期目2年目にあたり、目標や実施計画を全教職員で共有し、実施していく。              | GS探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、3年間の探究的な学びが生徒の進路選択につながるストーリーを、生徒・教員・保護者が実感できるようにカリキュラムを精選するとともに、探究通信等を用いて情報発信を行う。       |    |    |       |
|            |   | 自己と社会のウェルビーイングを目指す資質能力の育成に向け、外部人材の活用や学校外での活動をより充実させていく。また、探究活動におけるメンタリングのマニュアルを作成し、探究活動への関わり方の理解を広める。 |    |    |       |
|            |   | 昨年度に検討した、生徒の資質・能力や姿勢・態度を評価するためのルーブリックおよび評価方法を今年度試行し、その課題と成果について検討する。                                  |    |    |       |

|                  |  |
|------------------|--|
| 学校運営協議会<br>による評価 |  |
|------------------|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 次年度に<br>向けた改善の<br>方向性 |  |
|-----------------------|--|